

空き店舗の活用

買い物や活動による高齢者の「たまり場」拠点づくり ～茨城県ひたちなか市・NPO法人くらし協同館なかよし～

1 概要

- ・高齢者が健康に過ごす拠点、利用する人と支援する人の生きがい拠点としての店舗を設置。
- ・食品の販売を含め、多様な事業をボランティア、自治体等関係者が支援する運営体制が確立。
- ・地元野菜や惣菜の販売による収益確保。

2 背景ときっかけ

- ・地域(高度成長期の大規模団地)の高齢化・単身化が進行
- ・生協店舗の廃止による買い物を含めた生活環境が悪化
- ・元気な高齢者が他の高齢者を支える仕組みができないか検討
- ・店舗貸与をきっかけにNPO法人立ち上げ(2005年10月)から店舗運営



〈写真・店舗外観〉

3 取組の内容

1. 事業概要

- ・店舗では地元野菜や惣菜の販売他、食事・喫茶、健康体操、趣味講座、子育てサポートなど幅広い活動。
- ・店舗全体で一日平均270人、年間約8万人が利用、利用合計3,850万円
- ・地元野菜や特産品など55人の生産者と委託販売契約
- ・高齢者向けおかずセット・お弁当を生活サポートが宅配
- ・健康体操など趣味講座は35グループ、年間5,300人が利用

2. 運営の特徴

- ・各事業を8チームで分担(食の支援、福祉、喫茶、子育て、惣菜、交流、健康活動、広報)
- ・約90人の有償ボランティアがシフト交代制による運営(平均20人/日)
- ・ボランティアは元教師や調理師など、それぞれ専門やプロ意識を持ったメンバー
- ・広告チラシ「なかよしニュース」(隔週3,300部)を20人で手配りポスティング
- ・一斉下校日には遊びや宿題手伝いなど子どもサロンを開催

3. 行政との関わり

- ・支援が必要な高齢者の情報を民生委員・地域包括支援センターと共有するなど緊密な連携

4 取組の効果

- ・店舗を利用する人と運営・支援する人の両者が生きがいと元氣を得られ地域が活性化
- ・高齢者の見守り活動では認知症の早期発見、民生委員や事業者との連携も緊密
- ・店舗での活動では子育て中の若い母親と地域の高齢者との接点も
- ・あしたのまち・くらしづくり賞、いばらき産業大賞、地域再生大賞等、受賞表彰

5 取組上の工夫

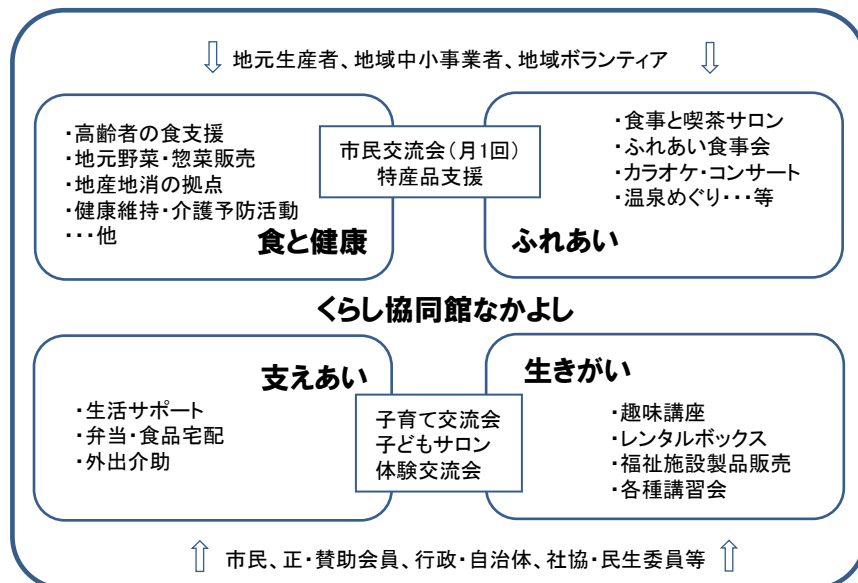
- ・店舗開設前の綿密なアンケート調査による地域のニーズ把握、青空市による試行
- ・ハード面では閉店した生協店舗の再活用(3年間無償、その後低額貸与)
- ・ソフト面ではプロ意識を持った有償ボランティア(1時間240円)によるチーム制運営
- ・各種事業の立ち上げには補助金を活用し、立ち上げ後は自主運営に移行

6 今後の展望

- ・店舗内の活動だけでなく、家事支援や生活の困り事を手助けできる生活サポートの拡充。
- ・もっと高齢者が集まりやすい、お知らせ方法や送迎も課題
- ・行政や自治会等と連携してサロンづくりの応援

7 参 考

<事業イメージ>



<写真・子どもサロン>

(2018.7)

【問い合わせ先】 特定非営利法人 くらし協同館なかよし
住所: 茨城県ひたちなか市馬渡2525-498 電話: 029-273-8388